

平成 29 年度 活動レポート : トルコギキョウ産地のブランド力の向上

(1) 株落ち防止による切花本数の増加

■背景とねらい

立枯れ症状の発生が問題となっている。そこで、土壌消毒の効果的な方法について検討した。

■本年度の取組と成果

7月出荷では冬の低温で活動する糸状菌が、10月出荷では夏の高温期で活性化する細菌の影響が推測されているため、7月と10月に出荷する栽培について、各1ほ場を選定し、JAと連携して現地試験を行った。

1 現地検討の内容と結果

(1) 7月出荷

深耕によるつくり土深層の土壌消毒効果の確認

(2) 10月出荷

つくり土を厚さ20cm程度はぎ取り、その下を耕起。再び土を戻してから土壌消毒を実施してその効果を確認

(3) 結果

いずれの区も立枯れ症状が発生せず、有益なデータが得られなかった。今年の結果については、JAと情報共有するのみにとどまった。

■今後の課題と対応

立枯れ症状は県下で問題となっており、原因究



深耕場所の根の確認

明と総合的な対策の確立が急がれている。次年度は多くの事例を収集し、実態把握を主体に活動する予定である。

(2) 実需者ニーズの高い秋出荷の推進

■背景とねらい

10、11月は婚礼や催事での需要が多く、最も収益が見込める。この時期の出荷量を増やし、農家所得の増加を目的に現地活動を行った。

■本年度の取組と成果

JA部会組織とともに、生産安定のための技術講習会(3回延べ24人)や土づくり講習会(1回7人)、個別訪問(5回延べ15人)を実施した。

また、豊富な光を必要とするトルコギキョウにとって、日が短くなる秋は栽培が難しくなるため、



講習会の様子(12月)

力石花卉部会を対象に、専技、試験場と連携し、選定した農家4戸8施設の太陽光

の強さを定期的に測定し、光の管理情報として提供を行った。

結果としては10月、11月の切花出荷本数は約41万本となり、過去最多の出荷本数となった。



電照の様子(11月)

■今後の課題と対応

光が弱まり、気温も徐々に下がる不利な条件下での生産ではあるが、供給の端境期に当たるため産地にとってのメリットは大きい。安定した生産ができるよう関係者と連携して活動を進めていく。

(技術係)